

排芦小舟

日野龍夫によると、本居宣長の『排芦小舟』には、「文学の政治・道徳からの独立の揚言、人情の自然、特に色欲・女々しさの肯定、心情・表現における風雅の強調、秘伝思想の否定、不可知論、文学における詞ことばの役割の重視、中国的思考の否定、『新古今集』尊重等々、後に宣長学という鬱然たる体系の骨格となるはずの主張がほとんどすべて出そろっている」という（日野「宣長学成立まで」『本居宣長 日本思想大系 40』岩波書店 1978 年第 1 刷発行、日野ほか校注、566 頁）。